

# コロナに負けない！ 必要とされる事業だから

新型コロナウイルス感染症が拡大し、私たちは経験したことのない感染症予防対策を強いられています。これにより閉店する店や、事業を縮小する企業が相次ぎ、また感染の危険のなか必要とされるものやサービスを届ける人たちもいます。ワーカーズ・コレクティブの仲間の状況を報告します。

## コロナ禍の学童

輪っはっは



感染予防に気を配りながらの「わくわくクラブ」

### 預かる責任を負い、手探りの日々

所沢市からの委託を受け、放課後児童クラブ「わくわくクラブ」を始めて3年目になる今年の春は、コロナの感染の広がりを気にしつつ、新年度に向けた準備をしていました。そんな中、休校のニュースが飛び込んできました。小学校より濃厚な接触の多い児童クラブも休所になるのではないかという予測は見事に外れ、朝から夕方までの開所を求められました。

3月2日より1日保育が始まりましたが、児童のマスクの着用も「できるだけ」というお願いレベルで、十分な感染対策はできていませんでした。その後、次第に預かれる条件は狭まっていき、4月15日からは臨時休所となりました。仕事を休めないエッセンシャルワーカーのための特別保育は、わくわくクラブではほとんど利用がありませんでした。休所中は、市役所や保護者への連絡が主な業務でした。

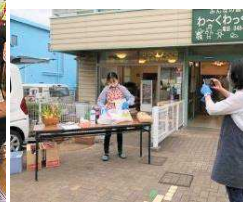
5月21日に学校の分散登校が始まったのと同時に、わくわくクラブも再開し、今は通常の預かりになっています。消毒や手洗い、マスクの付け方、友達との距離など常に目を配っています。テーブルに仕切りのテープをつけ、できるだけ定位置で過ごすようにしています。国や市からの補助があるので、一人で楽しめる本や、パズル、絵や工作の材料を増やしました。

子どもたちが、子どもらしく普通に過ごせる日が1日も早く来ることを願いながら、手探りの日々が続いています。

企業組合たすけあい輪っはっは 白土淳子

## フードパントリーでつながりあい、助けあいたい

てとて



寄せられた食品を袋に小分けし、屋外でお渡しする

### コロナ禍で困っている人がいる

「自分のバイトで生計を立てているが、コロナ禍で仕事量が激減し困っている」というひとり親の方のメールから始まったフードパントリー（必要とする人々に食品を無料で提供する活動やその拠点）。5月から9月まで毎回30世帯を超えるご家庭（半数以上がひとり親世帯）に、食材（7回）やお弁当（2回）をお渡しすることができました。

コロナ禍で、みんなの居場所「わ〜くわっく北本」は閉所、介護保険制度外の家事支援サービスや福祉有償運送は最低限の対応のみを行い、こども食堂は開催を見送っていました。

さいわいこども食堂は開始から4年がたち、埼玉県や全国組織のこども食堂ネットワークとの連携ができていたので、この時期行き場を失った給食の食材やたくさんの業者から提供品を受け取ることができました。行政や地域の方々の協力、新しいつながりも生まれ、多くの支援でフードパントリーの開催を継続しています。

回数を重ねていくと、色々なお困りごとを抱えている方がいらっしゃることもみえてきました。コロナ禍で生活困窮状態にある子育て世帯、障がいを持つシングルマザーの方、父親の入院やシングルマザー本人の入院など、見えづらい生活困窮状態にある人が私たちの周りに存在することを知りました。今後もこのつながりを大事にし、これからも地域の小さな声に耳を傾けられるてとてでありたいと強く思っています。

NPO法人ワーカーズコレクティブてとて 邨山真理